

パラスポーツの振興について

夏季パラリンピックを2度開催した世界初の都市として、パラスポーツをポピュラーなコンテンツとし、障害の有無を問わず、「いつでも、どこでも、いつまでも」楽しめる取組を推進

<2030年に向けた政策目標> ○障害のある都民のスポーツ実施率50% ○パラスポーツに関心がある都民の割合80%

障害の有無・年齢に関わらず、パラスポーツを楽しむための取組を推進

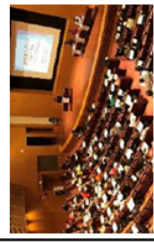
【目指す姿】

場の確保



- 身近な活動の場・機会の充実
- 施設のバリアフリー環境が充実

支える人材の育成



- パラスポーツを支える人材の裾野拡大と質向上
- 支える人材同士の交流機会や学びの場も充実

理解促進



- ファンやサポーターの裾野拡大
- 競技の観戦機会等の充実により、人気コンテンツ化
- ユニバーサルなスポーツとして楽しむ体験機会を創出

競技力向上



- 国際大会で活躍するパラアスリートが継続的に輩出されるとともに、より身近な存在に
- 競技スポーツを始める障害者が増加

【主な取組】

- ◆都立特別支援学校体育施設を活用し、施設貸出や体験教室を実施
- ◆バリアフリーに配慮したコースの選定等により、障害の有無に関わらず楽しめる「TOKYOユニバーサルウォーキング普及事業」を実施
- ◆区市町村におけるスポーツ・医療・福祉・教育分野等が連携して行う取組の後押し
- ◆障害者のスポーツ施設利用促進に向け、施設における好事例の発信やアドバイザーの派遣等により、環境整備を促進

- ◆区市町村職員やスポーツ・福祉・医療等の関係者を対象に、セミナーやフォーラム等を開催し、パラスポーツ振興の担い手を育成
- ◆障害者スポーツボランティアポータルサイトにより、ボランティア情報の発信や学びの場を提供し、支える人材の活動を活性化

- ◆パラリンピックを開催した8・9月を「TOKYOパラスポーツ月間」と位置付け、多様な主体と連携してパラスポーツの魅力を発信
- ◆誰もが楽しめる体験機会の提供
- ◆企業・団体による持続的なパラスポーツ振興の取組の後押し
- ◆パラスポーツ国際大会の開催を支援

- ◆次世代を担う選手を発掘・育成
- ◆国際大会で活躍できる東京ゆかりの選手の選手の強化
- ◆都にゆかりのあるアスリート等が都内各地域で講師や指導者として活動する機会を提供
- ◆都内で活動する障害者スポーツ競技団体を様々な形で支援

